

アメリカ科の思い出とアメリカ教育史研究

第25期 中村（笹本）雅子（1977年卒業）

私が教養学科のアメリカ科に進んだのは、AFS18期生としてダラスの高校で1年間学んだ経験が大きかったと思います。渡航前と帰国後のオリエンテーションで大学生のリターニー（留学経験者）として参加して下さっていたのが本会副会長の能登路雅子先生で、私たち高校生にとっては憧れの先輩でした。

25期生(1977年卒業)は女性3人・男性7人で例年より多かったです、けっこう仲良く勉強していた記憶があります。40年も経つので「時効」ということで書きますが、新川健三郎先生からの地図の課題（白地図に合衆国の発展の経緯や選挙結果等を描いて提出する）を（全員ではなかったのですが）共同でやっていました。二人ずつ交代でアメリカ研究資料センターの資料（歴史地図等）を調べて原案を作成し、それをもとにそれぞれが色付けをしたりして仕上げ提出したのですが、もとが同じなのにABCなど違う評価がついて返ってきたので、先生の色の好みもあるのかな～などと言ったりしていました（黄緑と紫を隣同士に使って自分でも変かなと思ったときに一番評価が低かったことを覚えています）。「アメリカ史の論文を読んで8回くらいレポートを提出する」という、これも新川先生の課題でしたが、なかなか大変で、読むではあっても書くのはたいてい前の晩に徹夜か半徹夜になっていました。

阿部斉先生はヘビースモーカーで授業中も吸っていらしたので、それに対抗しようと、先生が煙草に火をつけたらテトラパックの牛乳をストローで飲もうと同期の三人で相談したことがあります。「なんで授業中に牛乳を飲むんだ」と咎められたら、「先生も煙草を吸っているじゃないですか」と言おうと決めていて、牛乳を飲むことまでは決行したのですが、ジロッとにらまれただけで何もおっしゃらなかったのもので、この作戦は失敗に終わりました。いま思えばほほえましく幼い抵抗でしたが、そのときの三人はみな大学の教員になっています。

本間長世先生のお宅に呼んでいただいたときに、先生が子どもさんたちを「さん付け」で呼んでいたことにびっくりしたことや（私にとっては異文化体験でした）、猿谷要先生のお宅にうかがったときには、帰るときにお連れ合いのシマ

さんがマンションのベランダから手を大きく振ってくださったこと（猿谷先生が目黒駅に向かうときにはいつもそうやって見送りをされるとうかがいました）などがなつかしく思い出されます。フルブライトでいらしていた John R. Owens 先生も私たちを呼んでくださって、息子さんたちが「東京ではどこでも自分だけで行けるのがすばらしい」と言っていたのが印象に残っています。先生方はよく学生の私たちを自宅に招いてくださったものだと思います。ひとつの授業の受講生が教養学科の他分科の学生を入れても 10 人を上回ることがほとんどなくお招きに預かれる人数だったということでもありますが、教養学科というのはなんともぜいたくな環境だったと改めて思います。

卒論のオリエンテーションで八王子セミナーハウスに行ったことも覚えているのですが、これはアメリカ科だけでなく教養学科合同でした。卒論の提出日に新幹線が止まって遅れそうになった人が来るのを、すでに提出したメンバーで助手だった中里明彦先生とドキドキして待っていたのもなつかしい思い出です。アメリカ科の先生方や先輩方に卒業を祝っていただいた会で、初めて中屋健一先生にお目にかかることができました。私たちの世代にとっては、中屋先生は私たちの先生方を鍛えた「伝説の先生」という感じで、とても緊張しました。

私はアメリカ科の卒論でアメリカの初等中等教育法のタイトル I について書き、東大の教育学研究科に進学しました。修士論文では W. E. B. DuBois の教育思想を書きましたが、DuBois に興味をもったきっかけは新川先生のアメリカ史の授業でした。修論執筆後に一橋大学の本田創造先生のインカレゼミ（大学の壁を超えて一橋大学、筑波大、日本女子大、東大などの院生が集っていました）に参加させていただくようになったのですが、2013 年 8 月にはそのとき以来の女性研究者の友人 3 人とワシントン大行進 50 周年の Washington, D. C. を訪れ、記念式典にも行きました。博士課程ではコーネル大学に留学し、教育史・教育哲学と黒人研究を専攻して 1988 年に Ph. D. を取得、1990 年から桜美林大学で教えています。研究の専門はアメリカの黒人史と教育史で、アメリカ科の先生方や同窓の方々とはアメリカ学会でつながりを持ってきましたが、現在は日本教育学会と教育史学会の方が主となっていて、目下、2019 年 8 月に東京で開

催される世界教育学会（WERA： World Education Research Association）の大会に向けて、大会実行委員会副委員長として準備に取り組んでいます。民間での活動としては、「子どもの権利条約 市民・NGO の報告書をつくる会」の共同代表（17人います）の一人として、日本の子どもの状況を報告するレポート（英文約300頁）を作成・提出し、今年の2月にはジュネーブの国連子どもの権利委員会でのヒアリングを受けました。来年1月の日本政府の報告書の審査には傍聴に行く予定です。